



キャンパス風景

国際交流の特色

韓国海洋大学は、韓国の海事及び工業の発展に貢献することを目的に、1945年に国立大学として設立され、海事関連の様々な分野を有する名門大学である。海事学部、海洋技術学部、国際学部の4学部19学科からなり、3つの大学院（修士課程・博士課程）がある。キャンパスは韓国の南東部に位置する釜山市、韓国最大の海洋・港街に位置する。釜山市は人口約340万人とソウルに次ぐ韓国第二の都市であり、韓国最大の港湾設備を持つ。コンテナ取扱量では世界第五位であり、主要な産業は物流、造船、機資材である。

交流実績（平成26年度～28年度）

年度	H26	H27	H28
受入・派遣			
学生の受入	0	0	0
学生の派遣	0	0	0
研究者・職員の受入	1	0	1
研究者・職員の派遣	0	0	0



教員からの声

韓国海洋大学校は、釜山広域市影島区にある大韓民国の国立大学である。影島という400m、長さ1kmの小さな島全体がキャンパスになっている。島には高さ100mほどの緑に覆われた小山もあり、まるで「前方後円墳」を彷彿させる形だ。島といっても200m位の道路で市街と結ばれており、島のすぐ前を関釜フェリーをも含む数多くの船舶が行き来している。

平坦部や山裾には校舎が立ち並び、海岸には港やマリナーが設備されている。港には大学が所有する6,686総トンの巨大で美しい外観の練習船ハンバダ号（上記ハンナラ号の後継船）が停泊している。この船を使えば学校独自で海運事業が営めるのではないかとと思われる。2018年には同国の海洋研究機関が釜山に移設され、同大学校との合併を経て韓国海洋科学技術院として生まれ変わる。韓国海洋大学は、そこを訪れた誰もがあっと驚くような、まさに夢の大学なのだ。

工学部教授 末永慶寛

学生からの声

韓国海洋大学は1つの島全体がキャンパスであり、港には実習用の巨大な船2隻が停泊しており、初めての光景に大変驚いた。訪問前、工学部と同様に男子学生が大半を占めているイメージがあったが、実際には女子学生も多く在籍していた。釜山の繁華街から少し離れた場所であるため、交通面で不便な点があるのかと思ったが、構内にはバス停留所あり便数も充実していた。韓国第2の都市ということもあり、勉強だけでなく遊びも満喫でき、充実した学生生活を送れると感じた。

2009年 協定校訪問派遣生 内海 真貴